

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 6年 1月17日

協議会名:	苫小牧市公共交通協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>苫小牧市においては、他都市と同様に自動車依存型のライフスタイルの定着等に起因し、バス利用者は毎年減少傾向にある。また、市の郊外部においては、バスの運行便数に対し利用者数が著しく少ない非効率的な運行路線が存在し、地域の生活の足であるバス路線について廃止などが懸念されている。しかし、令和5年3月末時点での高齢化率は30.27%となっており、今後総人口が減少傾向にある一方で、高齢者数の上昇傾向が続くことから、将来にわたり交通弱者等の生活の足を確保するための生活交通ネットワークの構築が急務となっている。</p> <p>市西部に位置する樽前地区では、路線バスの錦西樽前ガロー線と学童輸送用のスクールバスが運行されていたが、路線バスの利用者が著しく少ないことに加え、運行ルート的大部分が重複していたことなどにより、両バスの運行見直しが必要であった。</p> <p>これらを踏まえ、平成23年3月策定の苫小牧市地域公共交通総合連携計画に、樽前地区における路線バスとスクールバスの一元化による「デマンド型コミュニティバスの導入」を位置付け、平成24年4月から地域公共交通確保維持改善事業によるデマンド型コミュニティバスが本格運行している。</p> <p>これまでも、利用者ニーズに合わせ路線・ダイヤの改正、予約時間の延長など、サービス向上に取り組んできたが、さらにコミュニティバスの重要性が高まるものと考え、平成26年3月策定の第2次苫小牧市地域公共交通総合連携計画に「デマンド型コミュニティバスの維持・改善」を位置付け、利便性の高い生活交通ネットワークの維持に努めている。</p> <p>また、令和3年6月策定の苫小牧市地域公共交通計画において、「将来にわたり持続可能な公共交通ネットワークの形成」を基本理念に掲げ、理念に基づく取組の1つとして「樽前予約運行型バス(樽前ハッピー号)運行事業」を位置付け、バス路線網を補完する交通サービスを継続することとしている。</p> <p>引き続き、地域公共交通確保維持改善事業により、樽前地区における生活交通手段を維持・確保し、地域住民の通院、通学、買物などの日常生活の移動や、地域間幹線系統等との接続による広域的な移動を可能にするなど、住民生活の足を将来にわたり存続させていくことが必要不可欠である。</p>